

OPINION 地域に根付かせよう、地元密着型の派遣添乗員

独特の県民性を視野に置きながらの 添乗員派遣会社の船出

大都市圏と異なり派遣という職業形態がややなじみの薄い地方都市で添乗員派遣会社を設立して12年、いろいろな苦難を乗り越えながらやってきましたが、未だに設立が妥当だったのか苦慮しているのが本音です。

本州の中央に位置する静岡県は、県内が浜松を中心とする関西系で、「はやらまいか」「やめまいか」の方言で結論がその場が出る西部地区、静岡を中心として保守的な色が濃く、「いいですね」と結論が中途半端な中部地区、沼津・三島が中心の関東系で、「勝手にやる」「やらない」と自己主張型の東部地区、の三圏分離県となっています。各々の地区は富士川、大井川で分断されていて生活文化の違いから県民性も大きく異なり、全国の新商品の試供販売は必ず静岡県で行うことは周知のとおりです。

そのような背景の下、添乗員派遣会社を設立したのは、地元大手旅行会社が遠く東京や名古屋地区に添乗員の派遣を要請して、成田空港、羽田空港や名古屋空港で集合、解散の企画により海外旅行を実施してきましたが、何か物足りずお客様からも地元の添乗員で地域密着型の添乗を、との声が高まってきたことにありました。

果たして事業として成り立つのかは不明のままのスタートでしたが、地元密着型のきめの細かなサービスのできる添乗員を育成し、少しでも静岡県の旅行業界のお役に立ちたいとの気持ちで一杯でした。

国内、海外を問わず“地元からの添乗員同行”をキャッチフレーズに旅行会社に提案し、旅行会社からは歓迎されましたが、そのためには添乗員の教育が最大の課題で、前述の地域県民性の違いなども視野に入れた基礎教育に重点をおくと共に、旅行会社に派遣添乗員の良さを売り込むことにも全力を注ぎました。

地元密着型の添乗員を育てるためには、三圏分離の県民性、生活文化の違い、旅行者と地元の添乗員の関係、顧客心理、相手の立場を自ら体験しお客様の立場にたったの顧客満足度のつくり方などを重点的に教育してきました。

派遣に対する 誤解の壁を打ち破る

添乗中に次回の旅行をセールスすることが旅行会社各員の使命、という考え方が一般的でした。又、派遣添乗員は頼まれ添乗のためとかく無責任であり、会社の情報が他社に漏れることが不安、などの誤解を打破することも大きな苦勞でした。

更に都会と異なりローカルの特徴として旅行の出発地、帰着地が空港や駅から遠隔地の場合が多く、集合、離団が早朝、深夜にまたがる場合には旅行会社の社員添乗は自家用車利用が多く、派遣添乗員にも同様の対応を求めてきました。地方の特性として公共交通機関や宿泊場所も近隣に無く、移動経費も派遣元負担が当然という考え方で、添乗日当は早朝、深夜に業務が及んでも一日は一日、という考えが浸透していました。

この早朝、深夜にかかる現地までのアクセス問題は、私自身がJATA静岡地区会の事務局長として長く旅行業に携わった関係もあり、旅行会社に対し地道に説得を続け理解と協力を求めた結果、現在は大きく改善に至っています。

気配り、目配り、心配りを社訓に顧客満足度の追及を

添乗員の業務は、お客様が結果的に満足してこそはじめてやりがいのある仕事と言えます。

お客様に喜びを与え、そして自分も満足し、そのためにはどうしたらお客様が満足するかを常に考え、人間の習性、習慣、感情、思考、をいかに早く察知するかが満足度を高める鍵であると思います。

人件費及び経費の削減等で業界をはじめ添乗員派遣会社も苦慮されているのが実態です。この現状を早期打開し、会員各社の協力を一体化することにより、派遣添乗員が優遇される社会を望みつつ、地方に拠点を置く派遣会社として微力ながら貢献していきたいと思ひます。



TCSA理事 小長谷 龍彦
 (株)エステーシー 代表取締役

CONTENTS

OPINION ————— 1 地域に根付かせよう、 地元密着型の派遣添乗員 TCSA理事 小長谷 龍彦 (株)エステーシー 代表取締役	TOP INTERVIEW ————— 4 株式会社ユーシア旅行社 代表取締役社長 井上 利男氏をお訪ねして	TCSA REPORT ————— 7 添乗員レベルアップ研修をJATAと共催で開催 2000日添乗員のコソコソ奮闘記 ②
特集 ————— 2 時代に逆行、更に悪化している派遣添乗員の労働環境 派遣添乗員の悲痛な叫びに派遣会社、旅行会社も真剣に耳を傾けよう!!	TCSA REPORT ————— 6 山田会長、叙勲おめでとうございます。 「ツアーコンダクター職業フェア」開催 「添乗員公開シンポジウム」開催	TCSAだより ————— 8 「TCSA福岡地区懇談会」スタート TCSAホームページリニューアルオープン!! 会員動向 編集後記

特集!

時代に逆行、更に悪化している 派遣添乗員の労働環境

派遣添乗員の悲痛な叫びに派遣会社、旅行会社も真剣に耳を傾けよう!!
平成15年度添乗員労働条件実態調査報告書から一

TCSAでは平成7年から隔年で派遣添乗員の労働条件実態調査を行っています。前回までは東京など5大都市の派遣添乗員を対象に調査を行ってききましたが、今回初めて対象を全国に拡大しました。調査の最大の目的は、高度の専門性とホスピタリティを必要とする業務にも拘らず、その対価としての収入は求められる能力と拘束時間に比し余りにも低い実態を時系列で把握し、同時に派遣添乗員の職業意識を知ることにより少しでも環境を改善していく一助とすることにあります。

今回の調査は、平成15年8月末に発送し10月末日の集約でしたが、一昨年の米国同時多発テロとそれに続く米英報復攻撃等の影響に伴い激減した海外添乗や、景気低迷による国内旅行の需要伸び悩みにより、平均添乗日数、平均年収も前回調査より大きく減少していることが特筆されます。

回答者プロフィール

- 調査対象：全国の当協会正会員所属の派遣添乗員9,300名
- 回答数：1,327名(回答率14.3%)
- 男女構成比：女性78.2%・男性21.8%
- 年齢：全体平均34.5才・女性平均34.1才・男性平均35.9才
- 家族構成比：独身77.3%(家族同居53.9%・独立生計23.4%)
- 通算経年：7.3年

現在、不安・不満に 思っていること上位7

1位	日当が低い	63.6%
2位	収入が不安定	59.5%
3位	1日あたりの労働時間の長さ	33.8%
4位	各種手当での未支給	23.4%
5位	アサインの偏り	15.7%
6位	体力的にきつい	13.8%
7位	添乗日数の減少	9.7%

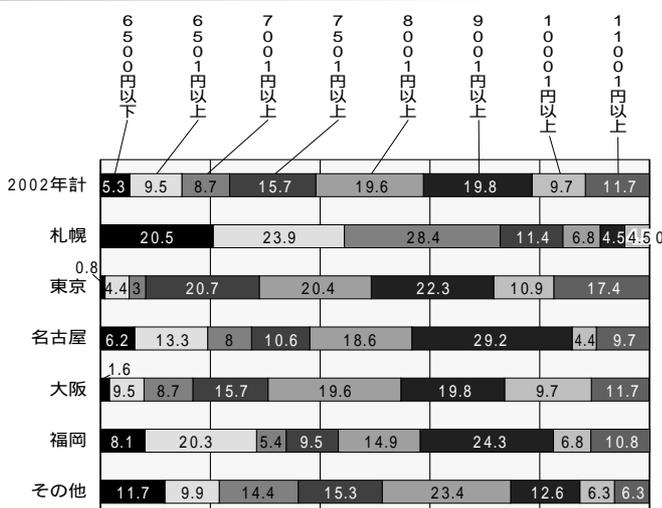
添乗業務から得た 税込みの平均年収

(経験年数1年以上、平成14年の年間添乗日数が150日以上)

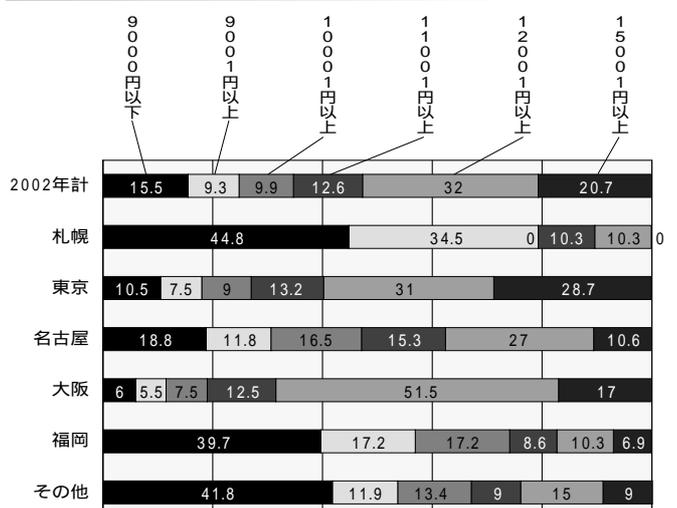
全体	214.7万円
女性	204.6万円
男性	241.6万円

添乗員が「不安・不満に思っていること」の1位、2位及び4位に挙げている収入の問題は、現在直面している最も大きな課題です。今回初めて7位に挙げられた添乗機会の減少も収入に直結する問題で、前回調査より平均年齢、経験年数が高くなっているにも拘らず、平均及び女性の年収では15~6万円、男性では39万円も減額しています。3位及び6位に挙げられた添乗業務の苛酷さは、国内日帰り添乗の増加や、バス台数口の担当、無理な日程によるもののほかに、旅行客のニーズの多様化を全て添乗員が受け止めなくてはならない風潮が蔓延してきたことによるものと思われます。

平均添乗日当・国内(地域別)



平均添乗日当・海外(地域別)



添乗業務で嫌な業務

	男 性	女 性
1位	無理な添乗マニュアルに従うこと	無理な添乗マニュアルに従うこと
2位	トラブル・クレーム処理	トラブル・クレーム処理
3位	夜警	宴会同席
4位	物品販売	物品販売
5位	宴会同席	二次会出席

添乗業務で改善して欲しい業務

	国 内	海 外
1位	無理な添乗マニュアルに従うこと	無理な添乗マニュアルに従うこと
2位	物品販売	通訳・ガイド業務
3位	食事・写真等のオプション販売	物品販売
4位	宴会同席	ショッピング案内
5位	二次会出席	トラブル・クレーム処理

前回同様、男女別及び国内・海外を問わず最も嫌で、改善して欲しい添乗業務は「無理な添乗マニュアルに従うこと」でした。繁忙期には日程的にも時間的にも難しいことが判っているながら、旅程保証の関係もあり派遣先から指示のあるマニュアルに従うことが強制され、結果として顧客からのクレームにつながるが多いことが挙げられています。添乗日報の報告等により改善方の申し入れを行っても一向に改良されない実態が浮き彫りになっています。又、旅行費用の低価格化に伴う物品販売の増加や、セクシャルハラスメントの遠因となる宴会や二次会の同席も改善に向けて取り組んでもらいたい課題となっています。

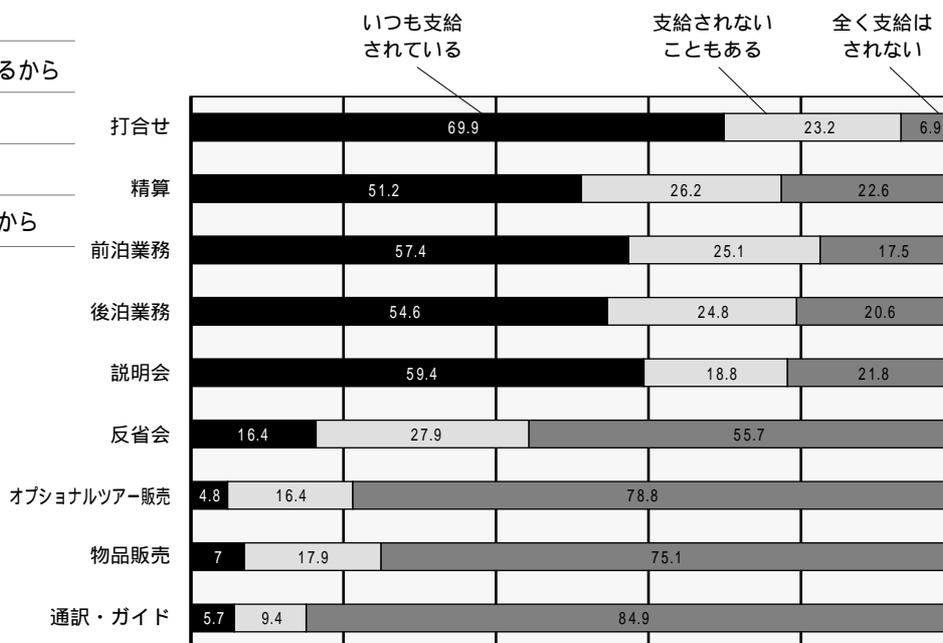
添乗業務の魅力上位5

動機づけ

- 1位 この仕事が楽しいから
- 2位 多くの人と接する機会が持てるから
- 3位 旅行ができるから
- 4位 休みが自由にしやすいから
- 5位 組織の中で働かなくてもよいから



日当以外の収入(付加手当) 未だ不十分な付加手当の支給状況



通訳、ガイド業務は

派遣添乗員にとって付加手当対象業務である、との認識を!!

基本給が支給されていない派遣添乗員にとって派遣先旅行会社の求めに応じて入社した場合、日当或いは手当が派遣先から支給されてしかるべきです。添乗日数に日当を乗じた賃金に加え、その添乗業務に付随する打合せ、報告、清算等の為に出社した場合の手当て及び説明会、反省会等に出席を要請された場合の手当て等は当然支払われるべきにも拘らず、全く支払われていない場合がまだまだ多いことが判明しました。又、添乗員本来の業務ではない通訳、ガイド業務をやむを得ず派遣添乗員が行った場合は、添乗日当以外に通訳料、ガイド料金が支払われるべきにも拘らず、85%が支払われていないという実態も浮き彫りにされました。こうした業界慣習が改められない限り、待遇の改善、身分の安定も望めず、優秀な人材が去っていきまいます。それは旅行業界にとっても大きな損失に他なりません。添乗業務の魅力の根底にある「お客様の喜ぶ顔が見たいから添乗員を続けている」という心意気だけに依存する時代は終わったのではないのでしょうか。

株式会社ユーラシア旅行社

代表取締役社長 井上 利男氏

思わず「お引越ですか」とおたずねしたくなるような書類のダンボール箱が積まれた社長室で大柄な井上社長は汗をふきふきインタビューに応じてくださいました。



三橋専務理事(以下三橋) 御社は旅行業界でも数少ない上場企業で高収益の旅行会社でいらっしゃると思いますが、創業の経緯からまず伺わせて頂けますか。

■ たまたまスタートした旅行業で 15年目に店頭公開

井上社長(以下井上) 26歳までアメリカに留学というより遊学していましたが、その間日本の書物ばかり読んでいて今



から考えるとアメリカに行っていた意味は無かったかもしれません。帰国後ソ連、東欧を中心に扱う旅行会社に1年数ヶ月勤務し、自分で言うのもなんですが、営業で好成績をあげました。

その業績に対しての報酬が余りにも少ないこともあり独立を決意しましたが、小資本でできる旅行業、不動産仲介業、外食産業のどれかと思いました。最初に資格をとったのが旅行業務取扱主任者だったので旅行業を始めたのが真相です。

三橋 実際にお始めになって旅行業界についてのご感想は。

■ 会社づくり・人づくりをしない旅行業界 優れた人材こそ会社の財産

井上 旅行が生活の一部として定着し、旅行業の社会的な位置づけも向上してきたとはいえ、全般的に旅行会社の経営者は口幅ったいようですがまだまだ努力が足りないと思います。旅行会社の社員が低い賃金に甘んじているのも本質的に旅行好きであり、好きなことをやれるのであれば給料は二の次、という点を経営者が利用している事が根底にあるからだと思います。又旅行会社志望者が多いことからいつでも人は採用できると思っている面もあるのではないですか。旅行業界は商品づくりが先行して、会社づくり、人づくりをしない

業界ですが、社員こそ会社の財産であり、人がサービスの質を高め、作っていくものだと思います。

三橋 添乗を専門職としている人達もお客様の喜びや“ありがとう”の一言にやり甲斐を感じて少ない報酬でも続けている面があります。御社の主催旅行は大半がエスコートツアーとお聞きしていますが、ツアーコンダクターの役割につきましてはどのようにお考えでいらっしゃいますか。

井上 全体の98%が添乗員同行ツアーです。添乗員は一部を除いて全て社員で賄っています。社内に総合職、旅行業専門職、クランク職の他に添乗を専門とする社員が10

数名在籍していますが、ピーク時には社員誰でもが添乗できる体制にあります。旅行中いろいろなトラブルが発生して添乗員の力をもってしてもどうにもならない場合もありますが、常に誠意を持って対処し、お客様に前向きな必死さが伝わるように指導しています。

三橋 御社のリピーター率の高さは定評がありますが、どのように顧客管理をなさっておられるのですか。

「お客様に日常生活の感動体験を」を 社のコンセプトに

井上 会員誌ユーラシアニュースを配布しているお客様が現在約55,000人いらっしゃいます。「感動体験」をコンセプトに当社のファンづくりを行い、他社が真似のできない旅行を企画していることが強みであり、土産物店への無理強いなど自分がされたら嫌なことは一切しないという潔さが評価を受けているのだと思います。代売はせず全て直売によって集客をすると共に常に新しいシステムを構築することが大切です。リピート率70%は高すぎ、怖ささえ憶えます。決して高いことが健全な経営とは言えず、

新規顧客の開拓が課題と思っています。今後旅行業の範疇にとられず、異業種とのコラボレーションも考えていきたいと思っています。三橋 御社では出版部門で書籍を出される等、独特な経営哲学が興味深いのですが。



社員の力を信じ、 何もかも社員の手づくりで

井上 2001年4月に上場しましたが、その後の米国同時多発テロでは当社も大きな打撃を受けました。旅行業も他産業同様に外的要因にさらされることは自明の理であり、常に起りうるリスクをどうヘッジするかを考えていくのが経営者の責任であると思います。経営者は日常から利益の出る構造を構築し、社員との信頼感を築くことが最も大事であると思っています。

当社はガラス張りの透明化した経営を心がけ、会社づくりのできる人材を他産業から集め、知の共有をしています。管理職とは年2回面接し、各々の業績を評価する徹底した実力主義をとって、業界水準よりかなり上回った待遇をしていると思います。又、全ての行動基準をマニュアル化しステートメントとして文章にすると共に誰もが仕事を分担できるように指導し、専門バカをつくらぬよう心がけています。先の店頭公開も全て社員が率先して成し遂げましたし、ユーラシアサーピスを設立した時も同様に社員自身が行いました。当社発行



の「風の旅人」や会員誌「ユーラシアニュース」も社員が手づくりで編集を行っています。人間必要に迫られればできるものですし、そう信じています。社長の役割は環境を守ることであり、会社の今後の方向性はマネージャーが決定すべきと思っています。当社は常勤役員も少なくスピーディーな意思決定が信条です。

三橋 社長ご自身のご趣味とか夢をお聞かせいただけませんか。

井上 旅行会社を経営していながらなぜか乗り物嫌いなため余り旅行はしていません。食べることとワインが好きなのでこのような体型になっていますので、休みの時はつとめて散歩をしたりして一万歩歩くことを心がけています。時には神宮ヘテニスをしに行きますが、ヘビー級の相撲取りがやっているようだと言われています。自分自身は温泉が好きなので、温泉めぐりをよくやりますが、将来的には温泉宿などの経営もしてみたいと思っています。

三橋 最後に協会に対して何かご要望はございますか。

井上 協会が会員会社向けのレベルアップ研修などいろいろ活動を行っていますが、是非添乗員からの生の声を取り上げると共に、添乗員が参加しやすい時期に実施するよう希望します。

三橋 そのように努力します。今後とも協会をご支援下さいますようお願い申し上げます。



信念を持って経営ビジョンを熱く語られる井上社長のお話しに思わず引き込まれ、眼からウロコが落ちる思いで社長室を後にしました。



山田会長、叙勲おめでとうございます。



山田隆英TCSA会長が長年の運輸行政事務の功勞により、11月3日に等級を廃止した新しい栄典制度による初めての発令で「瑞宝重光章」を受賞されました。会長にはいつまでもお元気で協会の舵取り役としてご活躍いただきたいと願っています。

「ツアーコンダクター 職業フェア」開催

今年度の事業運営計画の一環として、添乗員の職業に興味がある方々を対象に、9月27日(土)にTCSA研修室にてフェアを開催いたしました。同フェアは企画委員会が主管し、添乗員厚生委員会の委員により運営されました。協会初の試みとなったフェアには事前に申し込みのあった会社員、大学生、専門学校生など58名が参加し添乗員という職業についての説明に熱心に聞き入っていました。

当日のプログラムは、

1. 協会からの資格取得や派遣会社への登録手続きなどの解説、
2. 現役の添乗員による添乗業務の解説、
3. 現役添乗員4名に対し添乗員になったきっかけ、職業としてのやりがい、苦労話、印象に残る出来事等のインタビューを行いました。

又、プログラム終了後、添乗員厚生委員会委員及び現役添乗員による相談コーナーでは終了後も拘らず多くの方が残り、個々に派遣会社への登録や添乗業務について質問や相談を熱心にされていきました。

参加者へのアンケートの回答では、「考えていた以上に添乗員の仕事は責任が重く、又やりがいのある仕事だと思った」、「是非チャレンジしてみたい」というものが多く、概ね添乗員という職業を理解していただく目的は達せられたものと思います。

協会では添乗員志望者の減少に歯止めをかけるため、今後も東京以外の場所でも引き続き開催していくことを検討しています。

「添乗員公開シンポジウム」開催

高品質で収益性の高い添乗員同行ツアーの企画に役立たせていただくことを目的に、TCSA主催のシンポジウムを10月3日に横浜で開かれたJATA世界旅行博に併せて開催しました。

当日は旅行博初日の業界関係者入場日に当り、旅行業界関係者を中心に120余名の参加者を前に、企画委員会委員会社推薦のベテラン添乗員4名のパネリストとコーディネーター役のTCSA三橋専務理事により約2時間にわたり「お客様の満足度を高めるためにどんな工夫をしているか」「多様化するお客様のニーズにどう対応しているか」「添乗の現場で遭遇した苦労話」などについてパネルディスカッションが行われました。

それぞれ経験豊かな個性あふれる現役ベテラン添乗員の発言に対し、シンポジウム終了後のアンケートでも「良きにつけ悪きにつけ添乗員の本音の声の聞き、改めて大変さが判った」「商品づくりへの率直な感想、意見が聞けて役に立った」「お金より仕事の充実感に意義を感じている添乗員に共感を覚える」などの意見が聞かれました。

又、「旅の本質的な楽しさというより苦労話に主眼が置かれ過ぎた」「商品造成に直接役立たせる話がなく期待はずれ」「カリスマ添乗員というからにはもっと個性の強い人の出演を」「全体に準備不足の感がある」など厳しい指摘もあり、次回への反省材料としていくつもります。

更に添乗員同行ツアーの今後の推移では、個人旅行やリピーターが増加するため減少すると回答した方も一部いましたが、大半は高齢者やハンディキャッパーの増加、及び高品質の旅行を望む層のために専門的な添乗員は必須で今後添乗員同行は横ばい又は増加するという意見が多くありました。



次に添乗員同行ツアーのメリットとしては、安心感、安全性をあげる人が最も多く、無駄の無い旅程の進行、非常時対応、言葉の不安解消、旅の楽しさと感動の創出等のほか、収益性の高さ、個人・団体客のリピーター化の促進など旅行会社の立場からの意見も見られました。一方デメリットとしては添乗員のでき不出来、当たり外れにより旅の楽しさが左右される、添乗員に余計な気を使うなどのほか、客の高度化、ニーズの多様化に対応できない添乗員が増加しとめがうまくいかないケースが増える、といった意見もありました。

添乗員レベルアップ研修をJATAと共催で開催

従来ブラッシュアップ研修としてTCSAが行ってきた添乗員のための研修を2003年度から旅行会社の事業者団体の(社)日本旅行業協会(JATA)と共催で一連のレベルアップ研修を実施いたしました。旅行会社に所属する社員添乗員とTCSA正会員に所属する添乗を職業とする派遣添乗員の立場は異なりますが、添乗という業務において旅程の円滑な管理を実行し、旅行客の安全管理を図るとともに、旅の演出者として顧客の満足度を引き出す役割は共通のものです。

研修の場においては、日頃接することの少ない旅行会社の添乗員と話す場面もあり、お互いの立場を理解する良い機会でした。

2004年度においても現場の添乗員の方々が希望するテーマを設定し、共催にて実施していくことを検討していきます。

2003年度レベルアップ研修一覧

日時	研修名	参加人数	主催
9月11日	航空機非常脱出訓練研修(JAS訓練施設)	24名	TCSA
9月17日	航空機非常脱出訓練研修(JAS訓練施設)	19名	TCSA
11月11日	海外添乗業務基本動作(大阪天満研修センター)	12名	JATA・TCSA
11月12日	海外トラブルの防止と対応(大阪天満研修センター)	17名	JATA・TCSA
11月13日	イスラム教とイスラム文化(大阪天満研修センター)	10名	JATA・TCSA
	旅行医学講座(大阪天満研修センター)	11名	JATA・TCSA
11月17日	イスラム教とイスラム文化(TCSA東京研修室)	25名	JATA・TCSA
	旅行医学講座(TCSA東京研修室)	32名	JATA・TCSA
11月18日	海外添乗業務基本動作(TCSA東京研修室)	27名	JATA・TCSA
11月19日	海外トラブルの対応と防止(TCSA東京研修室)	29名	JATA・TCSA
12月18日	航空機非常脱出訓練研修(JAS訓練施設)	27名	JATA・TCSA
12月19日	航空機非常脱出訓練研修(JAS訓練施設)	22名	JATA・TCSA

2000日添乗員の「コッコミ」奮闘記

連載 ㉒



(株)旅行綜研

澤田 建次さん

平成15年度永年勤続表彰者

月日が経つのは早く、文字通りあっという間に2000日の添乗日数になってしまったという感じがします。

この業界に入る前に約9年間世界各国を放浪し、最初は一人旅の延長程度の軽い気持ちで始めてその後に元々の仕事に戻る予定でしたが、一人旅と異なりお客様と接する旅行で違う発見の魅力の虜になり、ここまで来てしまいました。特に当初の頃は視察旅行が多く、いろいろな業界を知り専門家の方しか行けない場所を訪問することが出来、ちょっぴり得をした気持ちにもなりました。

視察とは別に今まで一番思い出されるのは、ワールドカップ予選の、所謂「ドーハの悲劇」を目の前で体験できたことで、その後三浦選手とホテルでの語らいは良き思い出です。逆にフランスのワールドカップではチケット問題で大変な体験もしました。

又、旧満蒙開拓団の故郷訪問ツアーでは、当時住んでいた家を訪問すると事前約束なしにも拘らず現地中国人が快く迎えてくれ、残留した孤児の方も現れお互いに泣き伏す光景にいたたまれない気持ちになり、それまで新聞記事の戦争しか知らなかった私自身が、その後中国残留孤児問題等に関心を惹かれる旅行になりました。

現在私自身楽しみにしているツアーは美術大学の現地体験教室で、一週間同じ寄宿舎で学生と一緒に料理や陶芸、リトグラフ等をやると、まるで自分が学生時代に戻ったような錯覚におちいります。

最近インターネット等の情報による下調べで旅行者も非常に勉強されていますが、その反面感動が薄れてしまっている感じがすると共に、添乗員としてお客様を上回る知識が必要であると感じるこの頃です。



「TCSA福岡地区懇談会」スタート

TCSA だより

TCSA正会員各社による地域の連絡組織として、昨年の札幌地区(会長:株ツアーリストサービス北海道鈴木取締役)の設立に引き続き福岡地区でも今秋発足いたしました。

全国各地に支部組織を有しないTCSAにおいて、協会と正会員の意見交換の場は総会を除き年一回開催される地区連絡会が唯一の機会でした。協会が行うセミナー、研修や各種行事が東京、大阪地区に偏りがちであることは以前から地方会員より指摘されていたことでしたが、正会員及び所属添乗員の数の上からもある程度やむをえないことでもありました。各地区での開催要望のとりまとめや、地区固有の課題解決のためには横の連絡網が必要であり、同じ地域の同業界としての連絡組織の発足は協会としても切望するものでした。福岡地区懇談会は14社が加盟し、(株)JTBビジネスサポート九州 高原社長を座長に活動を始めました。

TCSAでは札幌、福岡地区に引き続き他の地区でも同様の組織が発足し、協会に対するご意見、要望をとりまとめさせていただくことを願っています

TCSAホームページリニューアルオープン!!

この度TCSAウェブサイトを開設以来始めて全面改定をいたしました。

今回の改定では各ページのデザインを統一するとともに、これまでの掲載内容を一新し目的のページへのアクセシビリティを高めました。主な改良点は下記の通りです。

- 1.添乗員志望者に向けたページを拡充し、事業地区ごとに会員各社連絡先一覧を掲載し、HP保有の会員各社へのリンクを張りしました。
- 2.現役添乗員の方に向けたページ内容をまとめ、既存の能力認定試験案内や添乗員相談室のページなどの他に、新たにTCSAから配信するメールニュース登録フォーム、TC TIMESの掲載ページ、協会主催の各種研修のご案内などを設けました。
- 3.会員会社専用ページを新たに設け、業務連絡文書・研修書類・共済会書類の掲載や、協会の事業活動報告のページを設けました。(会員専用のIDとパスワードが必要です)
- 4.協会のご案内のページには、協会概要の他、機関誌のTCSA NEWS及び各種調査類を掲載するとともに、公益法人としての定款、事業関係諸表を網羅いたしました。

ぜひ一度、TCSAホームページをご訪問ください。

<http://www.tcsa.or.jp/>

会員動向

正会員

社名変更(旧社名)

テテ株式会社(トラベラー(株))

〒540-0012 大阪市中央区谷町3-1-8 NS21ビル2F
TEL:06-6945-5777 FAX:06-6945-7121

職名変更(()内は前職)

日本DFS(株)

代表取締役 堀川 悟(副社長)

住所変更

(株)グローバルユースビューロー

新住所 〒107-8412 東京都港区赤坂4-1-33
赤坂中西ビル8F

電話・FAXは従来通り

日本通運(株)

新住所 〒105-8322 東京都港区東新橋1-9-3
日通ビル23F

TEL:03-6251-1611 FAX:03-6251-6734

賛助会員

代表者変更(順不同、()内は前任者)

学校法人 東京観光専門学校

学校長 瀬尾 良晴(西山 卓也)

(有)ジャタ

代表取締役 山中 律人(千代 幸喜)

(((編集後記)))

昨夏から秋にかけて協会主催のイベントや研修を連続して開催したが、いずれも最後まで集客に苦勞する場面が多かった。参加対象、開催テーマ、開催時期等の選択において改善の余地は多々あるが、主催者側の一人相撲にならないよう肝に銘じるとともに、会員各社、添乗員の方々にも積極的な参加を是非お願いしたい。(T・S)

社団法人 **日本添乗サービス協会**

〒105-0011 東京都港区芝公園2-11-17 朝井ビル4階

TEL(03)3432-6032・FAX(03)3431-8698

E-mail tcsa@tcsa.or.jp

URL <http://www.tcsa.or.jp/>